

2020年度 専攻科学生選抜学力試験問題用紙 専門科目 ②基礎会計学

I. 各設問の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は下記の中から適切なものを選択すること。

勘定科目：

現金	当座預金	受取手形	売掛金
備品	貯蔵品	リース資産	支払手形
買掛金	リース債務	減価償却累計額	未払配当金
資本準備金	利益準備金	その他資本剰余金	任意積立金
繰越利益剰余金	支払利息	固定資産除却損	売上
受取利息	固定資産除却益	為替差損益	未決算

- X1年4月1日、下記の条件によりリース会社とコピー機のリース契約をした。このリース取引は、ファイナンス・リース取引と判定された。なお、利子抜き法により処理する。
リース期間：5年間
支払リース料（年額）：¥150,000（毎年3月末日払い）
リース資産の取得原価相当額：¥700,000
- 上記のリース取引がX2年3月31日となったため、1回目のリース料を契約どおり、当座預金により支払った。なお、リース料に含まれる利息は定額法により処理する。
- 米国のBILL社に商品\$5,000を販売し、代金を掛け（為替レート\$1=¥100）として処理してある。本日、売掛金\$5,000につき取引銀行と\$1=¥98の為替予約を行った。なお、本日の為替レートは\$1=¥105である。
- いわき株式会社（年1回3月末日決算）は、X1年4月1日に取得した備品（取得原価¥800,000）をX5年4月1日に除却し、除却費¥30,000を現金で支払った。なお、除却した備品の処分価値は¥150,000と見積られた。この備品は残存価額を取得原価の10%、耐用年数5年、定額法で償却し、間接法で記帳している。
- 当社（発行済み株式数200株）は、X1年6月30日の株主総会において、繰越利益剰余金¥2,180,000を次のとおり処分することの承認を得た。なお、残額は次期へ繰り越すこととする。
利益準備金：会社法に規定する金額
株主配当金：1株につき¥7,500
任意積立金：¥500,000
ただし、X1年3月31日（決算日）現在の資本金¥10,000,000、資本準備金¥1,300,000、利益準備金¥1,100,000であった。

II. 次の〈期末整理事項（未処理事項を含む）〉をもとに解答用紙の精算表を完成させなさい。ただし、精算表の（ ）の部分については推測して記入すること。会計期間はX1年1月1日から12月31日の1年とする。

〈期末整理事項（未処理事項を含む）〉

1. 現金の実際有高が¥300不足していたが、原因不明のため雑損として処理することとした。
2. 前期に生じた売掛金のうち、¥5,000が貸倒れとなったが、その処理がなされていなかった。受取手形と売掛金の期末残高に対し、2%の貸倒引当金を差額補充法によって計上する。
3. 期末商品棚卸高は¥9,900であった。なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 消耗品の期末未消費高は¥1,050であった。
5. 固定資産の減価償却を行う。
建物： 定額法，耐用年数25年，残存価額は取得原価の10%。
備品A： 定額法，取得原価¥54,000，耐用年数8年，残存価額はゼロ。
備品B： 定額法，取得原価¥54,000，耐用年数6年，残存価額ゼロ。
なお、備品BはX1年9月1日に取得。減価償却は月割計算による。
6. 支払家賃は期首から8ヶ月分で、残りは未払いとなっている。
7. 支払保険料のうち¥1,800はX1年7月1日に向こう1年分を支払ったものである。
8. 借入金のうち¥27,000はX1年5月1日に期間1年，利率年5%で借り入れたもので，利息は返済期日に元本とともに支払う契約である。利息は月割計算による。

Ⅲ. 製品 A を量産する小名浜工場では、標準原価計算を採用し、パーシャルプランを用いて記帳している。つぎの〈資料〉にもとづいて、各問に答えなさい。

〈資料〉

・標準と予算データ

直接材料費の標準消費価格	: 2,000 円/kg
直接材料費の標準消費量	: 10kg/個
直接労務費の標準賃率	: 1,500 円/時間
直接労務費の標準直接作業時間	: 5 時間/個
製造間接費の年間予算	: 57,600,000 円
変動費率	: @1,000 円
年間予定直接作業時間	: 24,000 時間 (月間: 2,000 時間)

(注) 製造間接費は直接作業時間にもとづき製品へ標準配賦している。

・精算実績データ

当月製品完成量: 380 個

月末仕掛品量 : 20 個 (50%)

(注 1) 直接材料は工程の視点で投入されている

(注 2) %は加工進捗度を示している。

(注 3) 月初仕掛品はなかった。

・当月の実際原価データ

直接材料費	: 8,120,000 円	実際消費量	: 4,200kg
直接労務費	: 3,040,000 円	実際作業時間	: 2,010 時間
製造間接費	: 4,638,690 円		

1. 標準原価カードを完成させなさい。
2. 原価要素別に差異の金額を求めなさい。
なお、差異については、有利・不利を判別し、○で囲みなさい。

IV. 次の各問に答えなさい。

1. 次の①から⑫に当てはまる語句を解答欄に示しなさい。

報告式の損益計算書においては、売上高から売上原価を控除して（①）を表示する。そこからさらに販売費及び一般管理費を控除することで（②）が表示される。そして、さらに営業外収益の加算、営業外費用の控除を行い（③）を表示する。その後、（④）を加算し、（⑤）を控除し、税引前当期純利益を表示する。

一方、貸借対照表は、資産の部、負債の部、および純資産の部に区分されて表示されるが、資産の部においては、（⑥）および（⑦）、場合によっては（⑧）の3つの区分により表示される。負債の部は、（⑨）および（⑩）の2つの区分で表示される。個別貸借対照表の純資産の部においては、（⑪）、（⑫）、および新株予約権の3つに大きく区分されて表示される。

2. 有価証券の分類について、保有目的と評価基準を踏まえて説明せよ。